

様々なジャンルの浮世絵が楽しめる 「写楽と珠玉の浮世絵」展

展示期間：2022年8月23日（火）～2023年2月19日（日）

今企画展では、江戸時代から明治時代当時に摺られたオリジナルの浮世絵版画を「名所絵」や「武者絵」等のジャンル別に約60点展示いたします。江戸時代に大衆文化として発展した浮世絵は、世相や生活文化の特色を描いているのが大きな特徴で、題材は非常に多種多様です。

中でも、江戸時代の最大の娯楽とも言われる歌舞伎のブームに伴って人気を博した「役者絵」は、沢山の絵師が人気役者を描きました。今企画展では、「役者絵」といえば思い浮かべる人も多い絵師である、東洲斎写楽のデビュー作から2作品を展示いたします。写楽は世界でも作品の現存数が少なく、鑑賞の機会も珍しい作品となっております。江戸・明治時代の人々が愛した様々な文化を、浮世絵版画を通して間近でじっくりとお楽しみください。

本展の見どころ

1, 初めての浮世絵鑑賞でもわかりやすく、浮世絵の名作をジャンル別に展示

日常の風景や流行、人気役者や物語など、浮世絵は様々な題材で描かれています。本展では当時どのような背景で描かれたものだったのかを各ジャンルごとに紹介しながら作品を展示いたします。

2, 世界でも現存数の少ない、東洲斎写楽の作品を展示

1794（寛政6）年5月、浮世絵界に突然姿をあらわし、華やかな雲母摺りの役者大首絵28枚を発表するも、約10か月で忽然と姿を消した謎の絵師「東洲斎写楽」。現存する作品の数は少なく、国の重要文化財に指定されている作品もあります。今企画展では、写楽のデビュー作であり代表作ともいえる役者の大首絵大判28作品の中から「三世坂東彦三郎の鷺坂左内」、「八世森田勘弥の駕籠舁鶯の治郎作」を展示いたします。

3, 間近でじっくりと鑑賞

当館の展示室内には柵を設けず、無料貸し出しのルーペを使って繊細な浮世絵版画の技術や細かく摺られた模様などを間近でじっくりとご鑑賞いただけます。

（数に限りがございます。全て貸出中の場合はご容赦ください）



左から「三世坂東彦三郎の鷺坂左内」、  
「八世森田勘弥の駕籠舁鶯の治郎作」

〒542-0085 大阪市中央区心斎橋筋2-2-23 不二家心斎橋ビル3F 大阪浮世絵美術館

※エレベーター、エスカレーター設備のないビルですので、予めご了承ください。

【開館時間】10:00～17:00（最終入館 16:30）

【休館日】月曜（祝祭日除く） ※開館時間・休館日は状況により急遽変更となる場合がございます。

詳しくはホームページをご確認ください。

【観覧料】大人1,000円 / 学生（学生証提示）600円 / 小学生（7～12歳）300円

<本件に関するお問い合わせ先>

TEL.06-4256-1311 / FAX.06-4256-1312 / Mail.<info@osaka-ukiyo-e-museum.com>

<https://osaka-ukiyo-e-museum.com/>

